

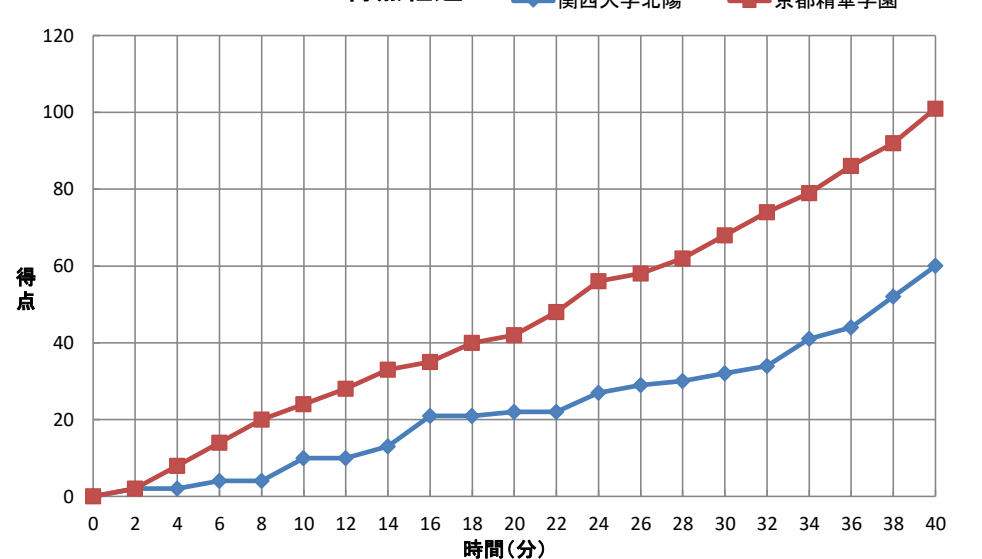


第71回近畿高等学校バスケットボール大会

個人トータル表

男子		令和6年6月22日		16:55 開始													
準々決勝		和歌山ビックホエール		D													
関西大学北陽 60		<table border="1"> <tr><td>10</td><td>1st</td><td>24</td></tr> <tr><td>12</td><td>2nd</td><td>18</td></tr> <tr><td>10</td><td>3rd</td><td>26</td></tr> <tr><td>28</td><td>4th</td><td>33</td></tr> </table>		10	1st	24	12	2nd	18	10	3rd	26	28	4th	33	◎ 101 京都精華学園	
10	1st	24															
12	2nd	18															
10	3rd	26															
28	4th	33															
(大阪)				(京都)													
番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則	番号	氏名	得点	3P	2P	FT	反則				
2	川原 史也	-	-	-	-	-	1	木下 梁	2	0	1	0	0				
* 7	米田 翔	30	8	2	2	0	* 6	上野 叶翔	6	0	3	0	0				
8	岡村 幸汰	-	-	-	-	-	7	善山 莞太	-	-	-	-	-				
* 11	滝澤 承太郎	4	0	2	0	4	* 13	新開 温矢	4	0	2	0	0				
12	永江 希丞	4	0	1	2	0	* 14	西村 晴太	12	4	0	0	0				
15	山崎 諒	0	0	0	0	2	15	西本 圭次	10	0	4	2	3				
16	木田 浩士郎	-	-	-	-	-	17	善山 奏介	3	1	0	0	2				
* 20	井元 海力	1	0	0	1	0	19	竹村 寅治郎	8	0	4	0	1				
21	西田 勇吹	14	0	6	2	2	21	杉原 拓	9	1	3	0	1				
25	長谷川 碩	-	-	-	-	-	* 23	東郷 然	0	0	0	0	0				
26	田深 橙真	-	-	-	-	-	32	中村 太優	8	0	4	0	0				
28	守屋 聡人	-	-	-	-	-	34	キモナ ディエウ	19	0	9	1	3				
29	佐藤 迅	0	0	0	0	1	35	山崎 燦吾	2	0	1	0	1				
* 32	今福 瑛音	5	1	1	0	2	* 77	ソロモン レイモンド	9	0	4	1	1				
* 71	山縣 奏太	2	0	1	0	1	89	松崎 大地	9	1	3	0	1				
コーチ	高木 穰						コーチ	山崎 翔一朗									
Aコーチ	浅井 直将						Aコーチ	常谷 拓真									
合計		60	9	13	7	12	合計		101	7	38	4	13				
クルーチーフ: 幡丸 登志久																	
アンパイア: 堤 健太郎 雑賀 弥一郎																	

得点経過



TO	1・2Q	3・4Q	OT1	OT2	OT3	OT4
TeamA	5:43	: 22:59	35:52	:	:	:
TeamB	14:25	:	:	:	:	:

【戦評】

【第1Q】
 関西大学北陽#6#13#14#23#77、京都精華学園#7#11#20#32#71がスタート。両チーム、ハーフコートマンツーマンで試合開始。京都精華は#77、#34の高さのあるリング下シュートで得点し、17対4となり関大北陽タイムアウト(残り4分17秒)。タイムアウト後は#7の3Pシュートを決めるが、その後も点差は縮まらず、24対10京都精華リードで第1Q終了。

【第2Q】
 開始から京都精華は内外バランス良く攻める。関大北陽は2-2-1ゾーンプレスで打開をはかるが、速いパス回しからの外角からのシュートが思うように決まらない。一方、京都精華は落ち着いたゾーンアタックで徐々に点差を広げ、42対22京都精華リードで前半終了。

【第3Q】
 京都精華ハーフコートマンツーマン、関大北陽オールコートゾーンディフェンスでスタート。開始から京都精華#14の連続3Pシュートでさらに加点。関大北陽はゾーンプレスで相手のミスを誘い、#7の1対1で対抗するが、なかなか得点に結びつかず。京都精華はフルメンバーチェンジしても、堅いディフェンスで攻撃を封じ、68対34で第3Q終了。

【第4Q】
 開始早々、関大北陽は積極的にダブルチームをしかけ、#12のドライブインから#21への合わせが決まる。関大北陽は最後までオールコートでチームディフェンスをし続け、#7の3Pシュート中心に食い下がる。しかし、京都精華の攻撃の手は緩まらず101対60で試合終了。京都精華の高さと選手層の厚さが際立った試合であった。

戦評: 北川 弘幸 記録: 耐久